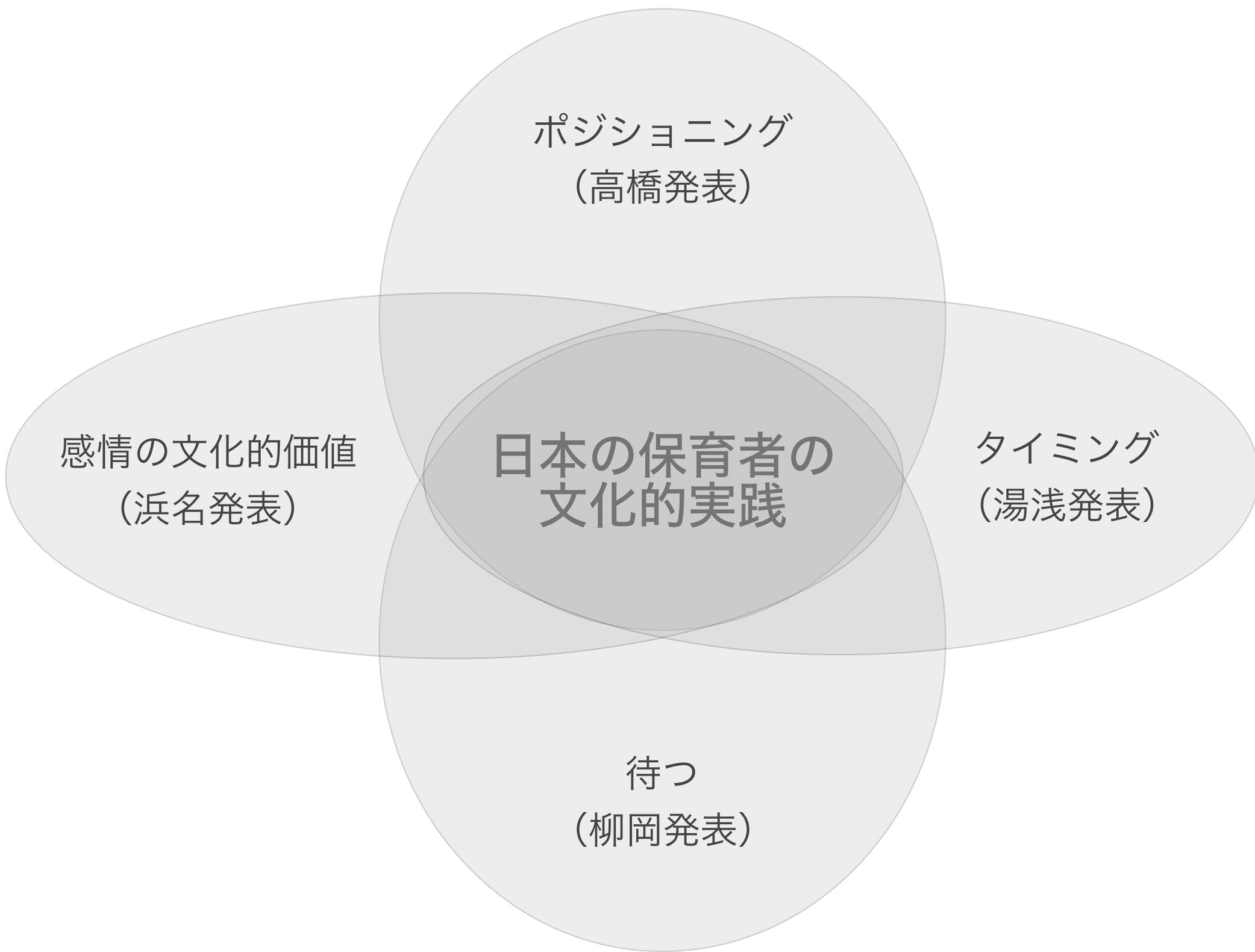


4名の話題提供から垣間見える  
日本の保育者の文化的実践



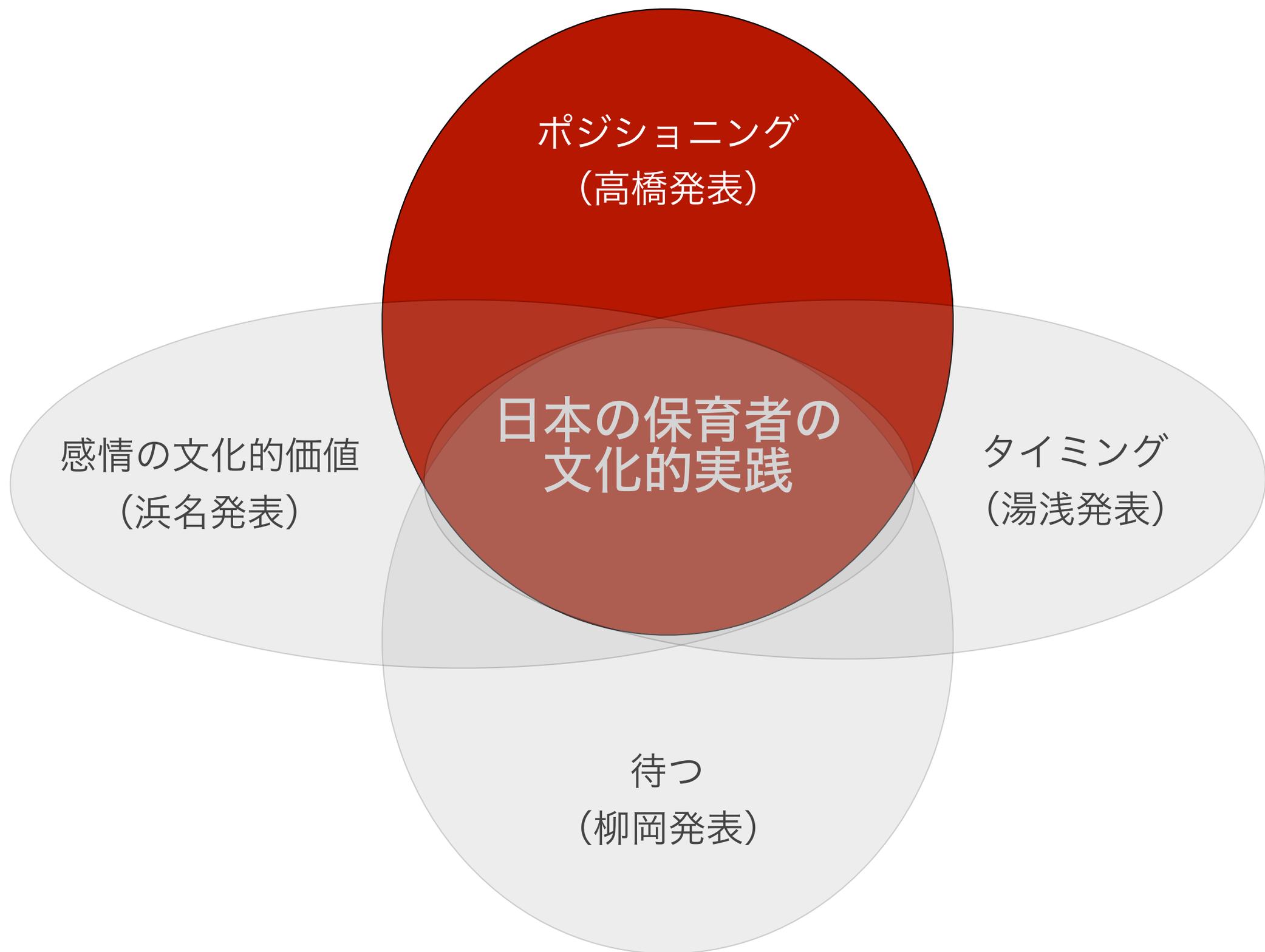
ポジショニング  
(高橋発表)

感情の文化的価値  
(浜名発表)

日本の保育者の  
文化的実践

タイミング  
(湯浅発表)

待つ  
(柳岡発表)



# 結果のまとめと考察

## I. 「子どもの声・主体性を重視する」保育観の重要性

1. 直接的に
2. 「クラス内での基礎的環境の整備」を介して間接的に  
SEN児本人だけでなく、クラスのお友達がインクルーシブ保育からよい影響を受ける保育実践に結び付いている可能性が示唆された

## II. 「規律・規範を重視する」保育観との相性の悪さ

1. SEN児・クラスお友達両者について、ポジティブな影響が認識されにくい
2. 「クラス内での基礎的環境の整備」の取り組みの低さを介して間接的にSEN児・クラスお友達のポジティブな影響の認識の低さに結び付いている

## III. 「クラス内での基礎的環境整備」の重要性が示される

一方で「個別の専門的支援」の効果は認められず

- 個別の専門的支援の難しさ

# 子どもの声・主体性を重視する

- ・ 子どもが自分の気持ちや要求を素直に表現できるように指導する  
vs. 子どもが互いの気持ちを配慮してゆずりあうよう指導する
- ・ ケンカが生じた時、子どもに解決をまかす  
vs. ケンカが生じた時、保育者が直ちに入って解決する
- ・ 子ども自身が遊びを考えたり、ルールをつくって遊ぶのを見守る  
vs. うまく遊べるように、保育者がルールをつくったり考えたりして方向づける

子どもの主体性を大事にするために大切なことの一つは、保育者の立ち位置だと思います...

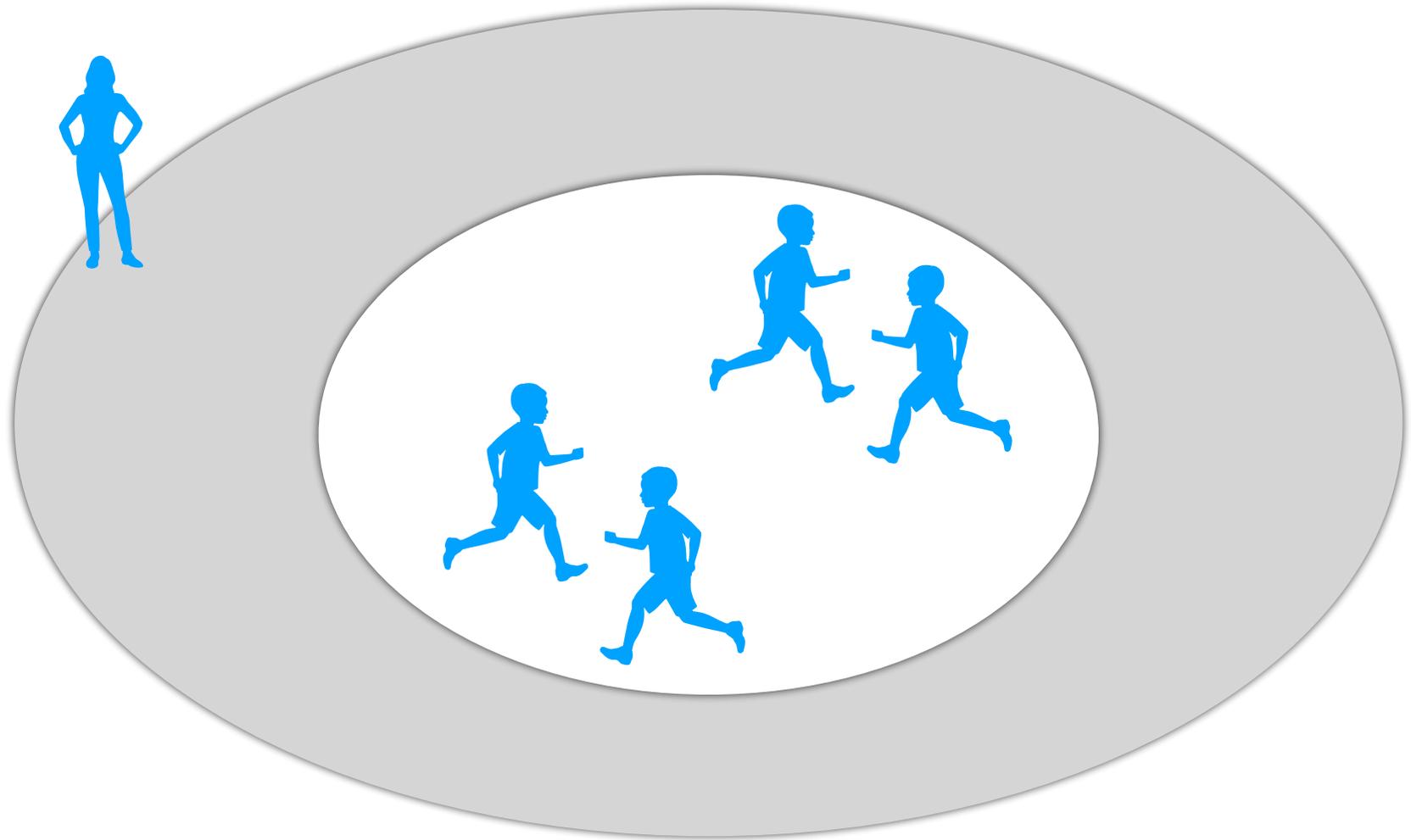
中丸元良園長  
(かえで幼稚園)

子ども自身で考え、問題解決できる距離

しかし必要な時は、保育者が一時的に介入できる距離

自分たちで考え、問題解決する...でも困ったときは、  
先生が来てくれる

距離は状況に依存する



子どもは**安心**して考え、問題解決を試みることができる（見守られ感）

# 子どもの声・主体性を重視する

- ・子どもが自分の気持ちや要求を素直に表現できるように指導する

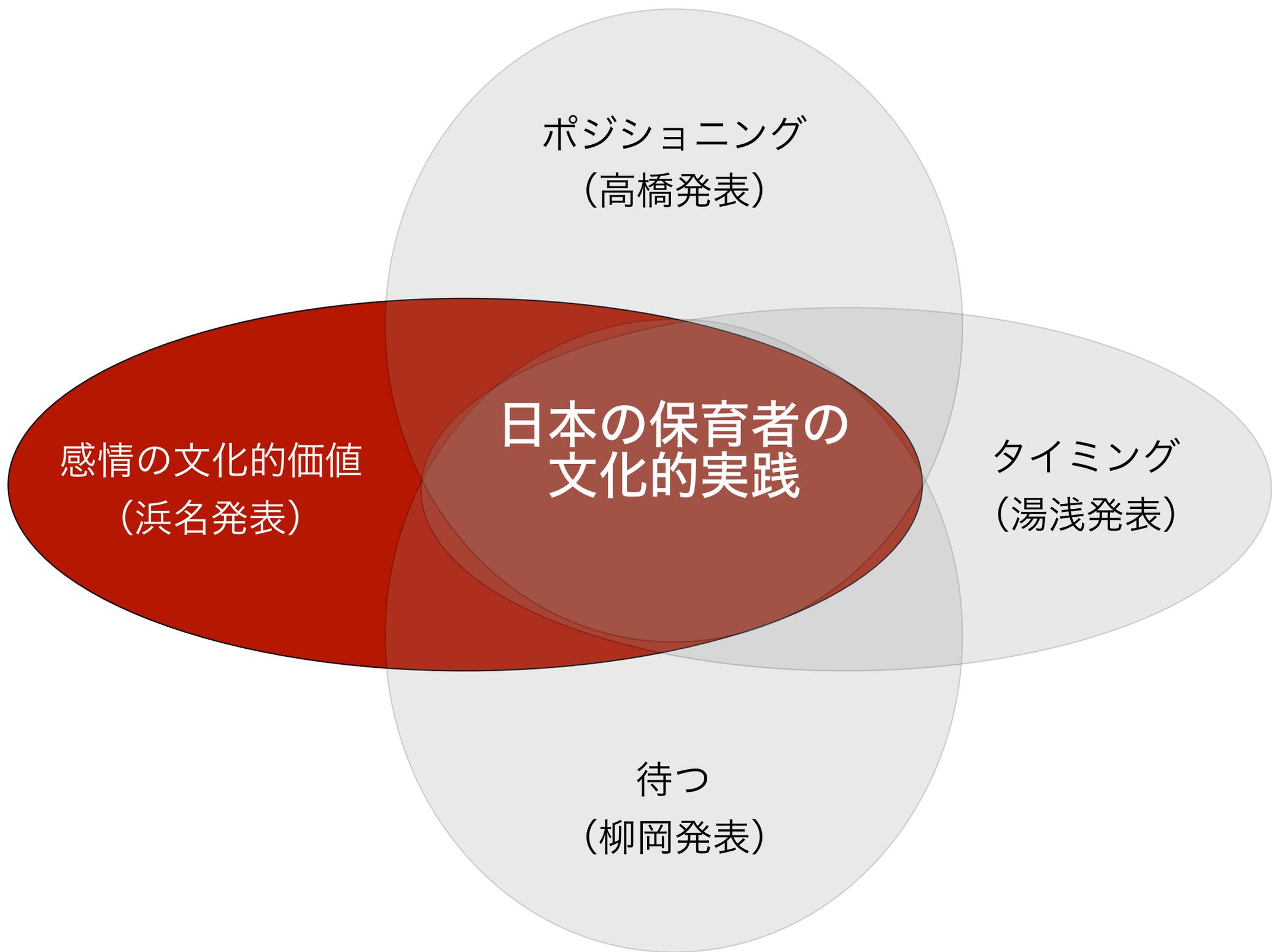
vs. 子どもが互いの気持ちを配慮してゆずりあうよう指導する

- ・ケンカが生じた時、子どもに解決をまかす

vs. ケンカが生じた時、保育者が直ちに入って解決する

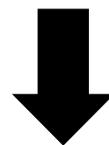
- ・子ども自身が遊びを考えたり、ルールをつくって遊ぶのを見守る

vs. うまく遊べるように、保育者がルールをつくったり考えたりして方向づける



## 考察

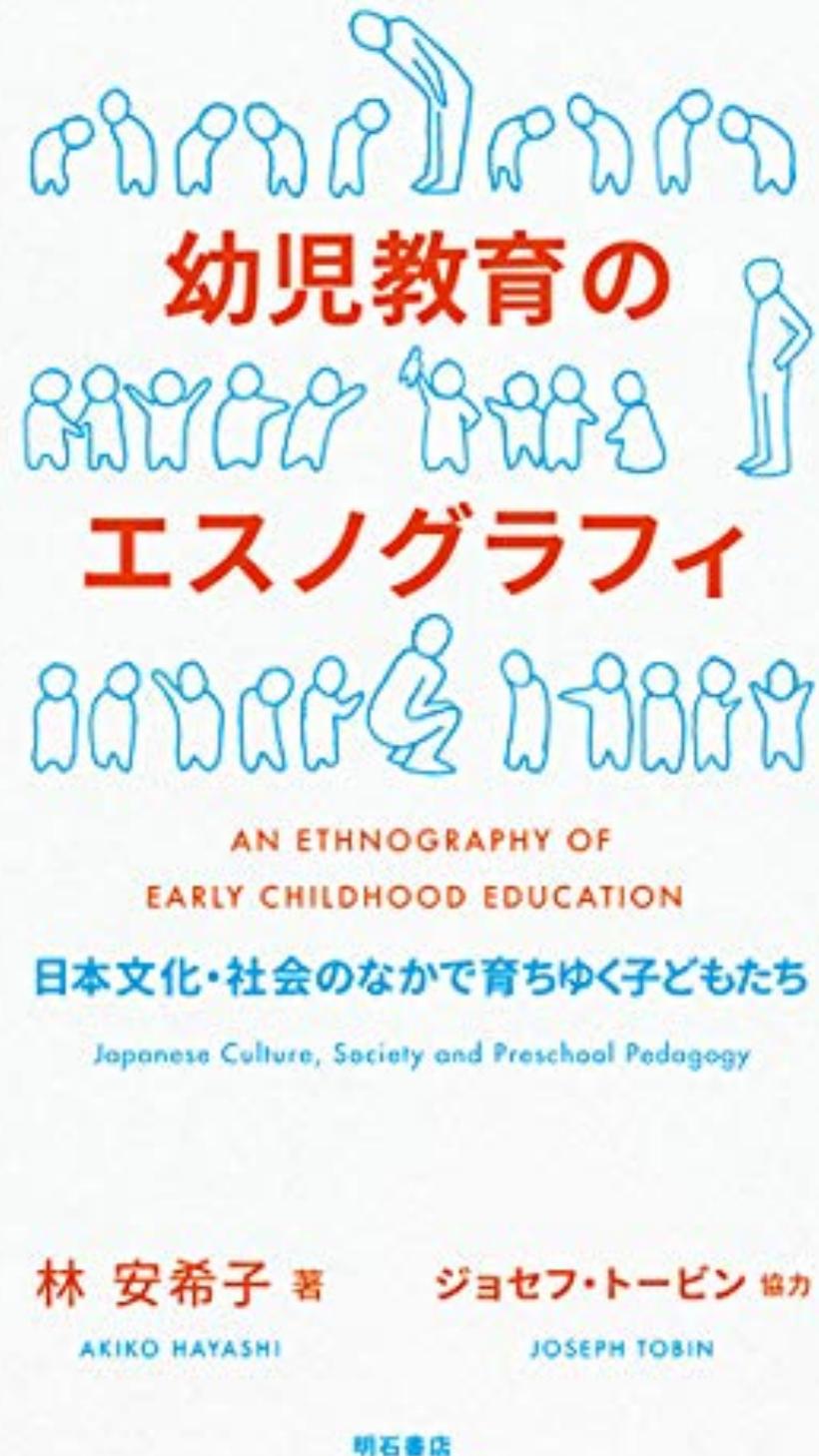
- 自分が遭遇するネガティブな状況に対する楽観視
- 自己の対処能力に関する有能感



- 自分が困難に巻き込まれ傷つくことを恐れない積極性
- 被害者への向社会性

日本の保育者が用いる  
「さみしい」の文化的価値

林・トービン (2019)





保育者 「お皿の上に一人取り残されてかわいそうな人参さん...さみしいなあ...」

日本の保育はグループの一員であることが大切にされる



林・トービン (2019)

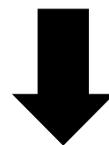
「仲間」と一緒に食べられる機会を逃すことは...  
たとえ人参であっても「被害者」の対象となる



林・トービン (2019)

## 考察

- 自分が遭遇するネガティブな状況に対する楽観視
- 自己の対処能力に関する有能感



- 自分が困難に巻き込まれ傷つくことを恐れない積極性
- 被害者への向社会性

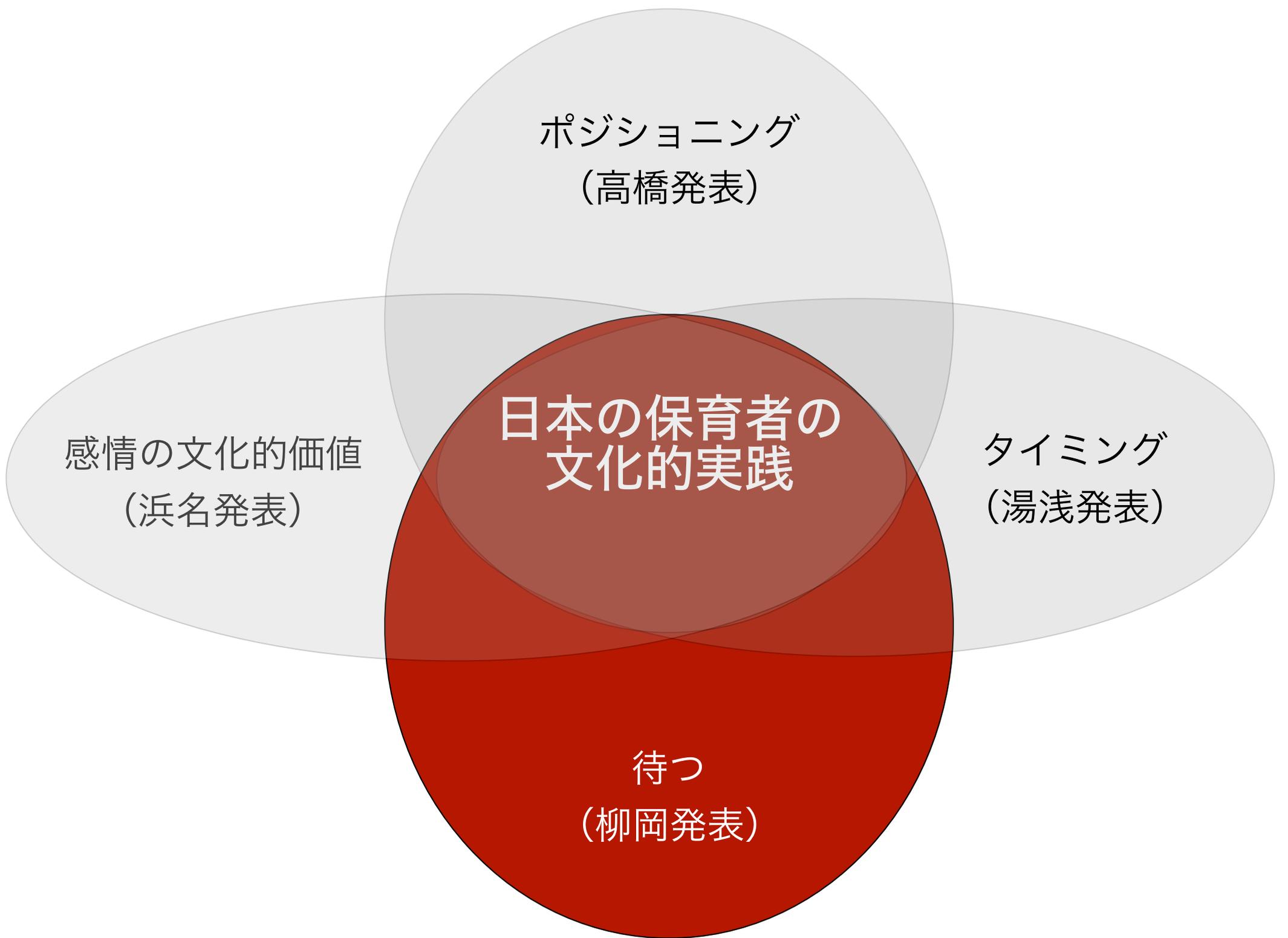
ポジショニング  
(高橋発表)

感情の文化的価値  
(浜名発表)

タイミング  
(湯浅発表)

日本の保育者の  
文化的実践

待つ  
(柳岡発表)



## ・ 自己制御を“引き上げる”実践

How? : 我慢をしたりする経験を積むこと

Limitation: 新奇な場面で自己制御ができるのか

→ 個人の系に閉じた実践



## ・ 自己制御を“支える”実践

How? : ① 信頼できる関係作り

: ② 自己制御的価値の集団内での共有

→ 関係性をもとにした実践



# 待つ保育

子どもにとって信頼できる保育者が行う  
あえて介入しない...という行為

# 介入する

(子どもは我慢できない)

## あえて介入しないで待つ

(子どもは我慢できるだろう)

(やむを得ないときは最小限の一時介入)

## 傍観する

(子どもは我慢できる)

ZPD

忍耐

# 待つ保育

子どもにとって信頼できる保育者が行う  
あえて介入しない...という行為

覚悟

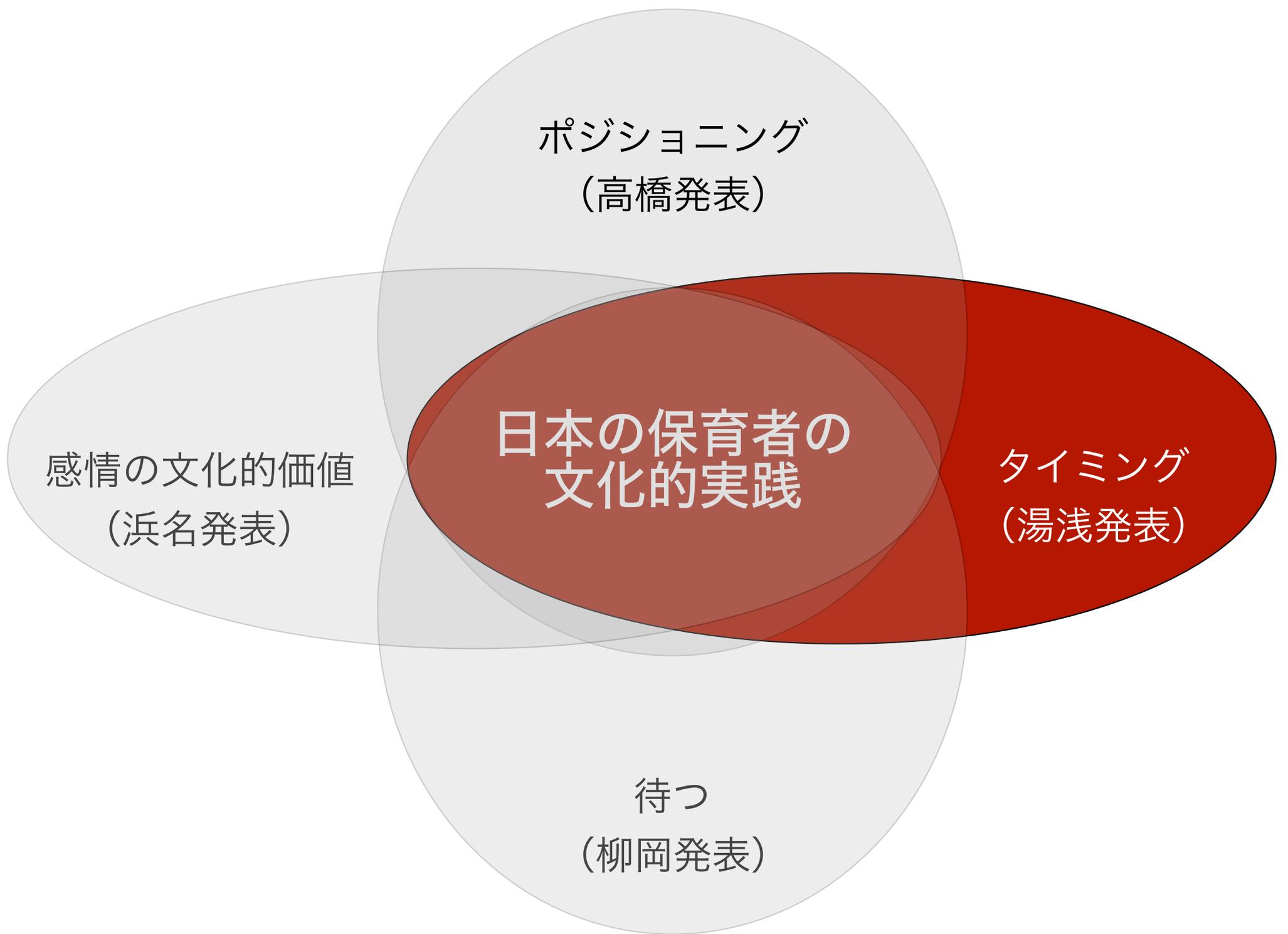
ポジショニング  
(高橋発表)

感情の文化的価値  
(浜名発表)

日本の保育者の  
文化的実践

タイミング  
(湯浅発表)

待つ  
(柳岡発表)



## インタビューから見たこと

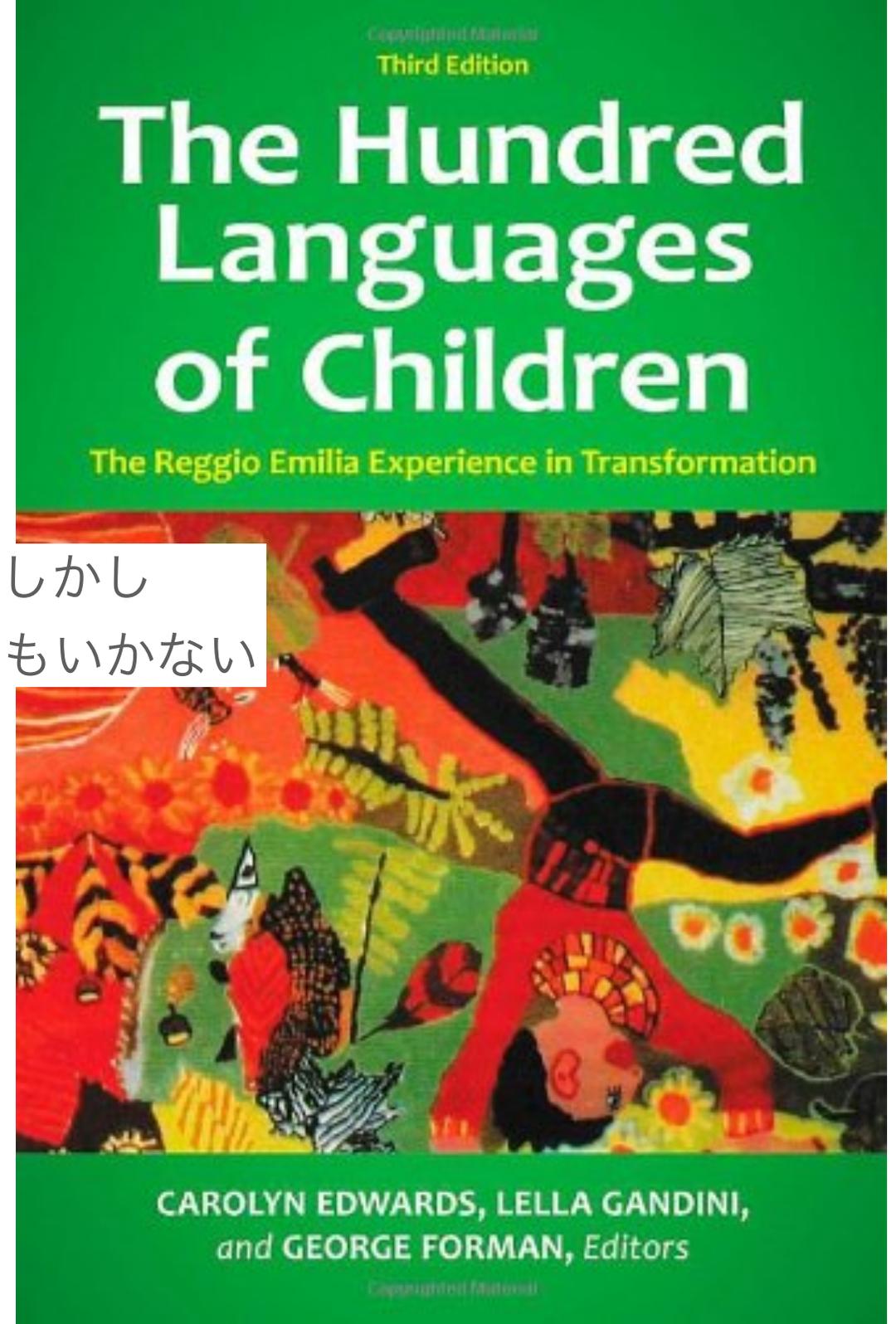
- 子どもの「ずる」は多くの保育者が見ている
- 子どもの経験値や思考力、問題に向き合う力によってかかわり方を変えている
- かかわる必要性を感じる一方、保育者の介入によって遊びが崩壊することも懸念している
- 経験から先を見通してかかわり方を判断している

保育者は日常の保育の中で  
かかわり方の理論を生成している

→実践知がある一方、共有されにくい

保育者は介入しすぎてはいけない、しかし  
貴重な介入の瞬間を見過ごすわけにもいかない

*Loris Malaguzzi*



介入しない

タイミングは難しい...

介入する

保育者は介入しすぎて、遊びを壊してしまってはいけない、しかし  
発言力のある子どもの「ずる」が、まかり通る状況を見過ごすわけにも  
いかない

保育は答えがないからこそ振り返りが大切にされる

## インタビューから見たこと

- 子どもの「ずる」は多くの保育者が見ている
- 子どもの経験値や思考力、問題に向き合う力によってかかわり方を変えている
- かかわる必要性を感じる一方、保育者の介入によって遊びが崩壊することも懸念している
- 経験から先を見通してかかわり方を判断している

保育者は日常の保育の中で  
かかわり方の理論を生成している

→実践知がある一方、共有されにくい

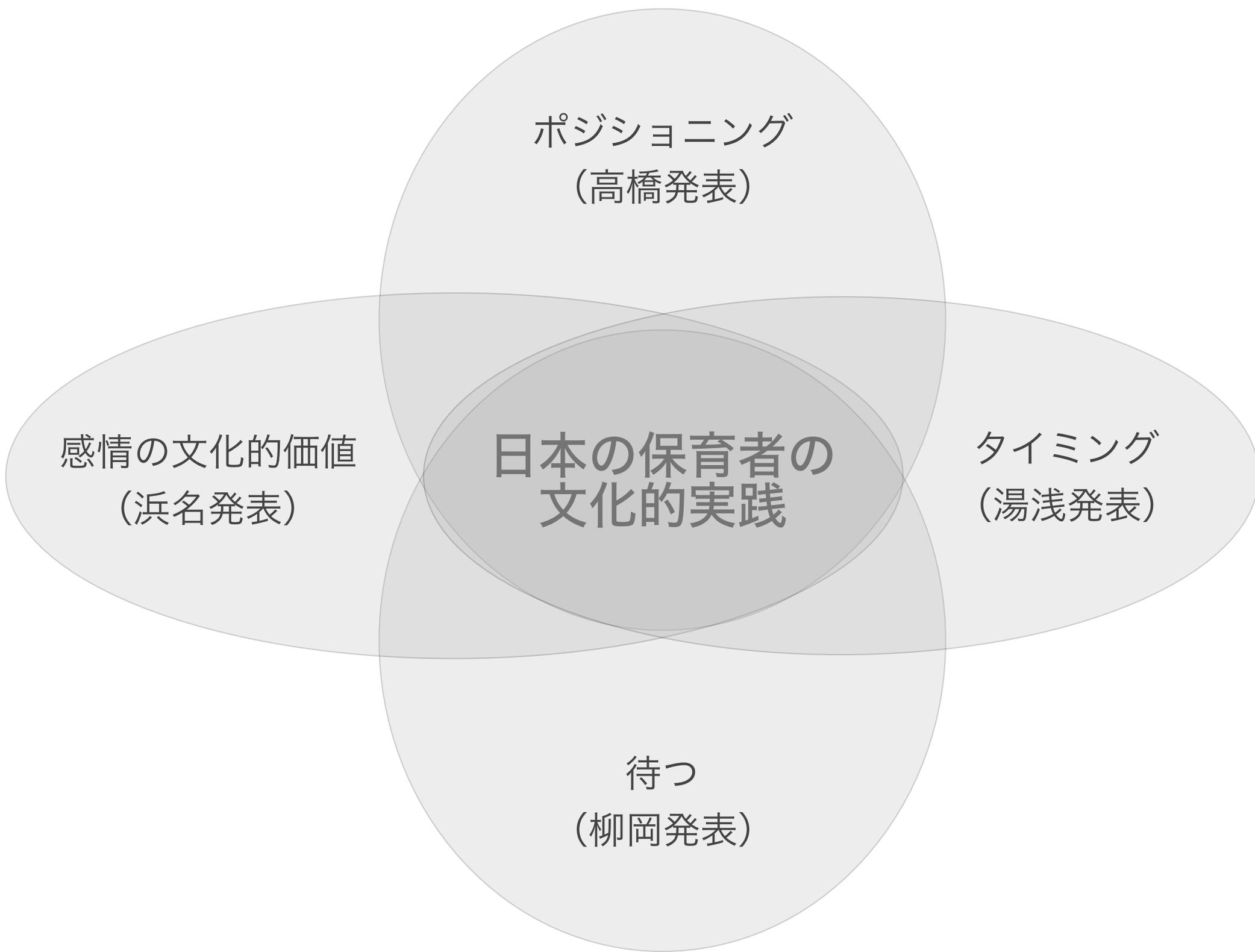
子どもの  
経験知

子どもの  
思考力

介入する（しない）の判断根拠として

子どもの  
問題に向き合う力

子どもに対する信頼 / 子どもに対する見通し



安心して問題解決  
できる距離

無生物に対する  
感情表現

## 日本の保育者の文化的実践

あえて介入しない  
待つ

介入タイミングの  
判断の見極め